

感染症対策下における子どもの安心・安全を高めるために

新型コロナウイルス感染症対策として、感染の拡大のスピードを抑制するため、さまざまな取り組みが行われています。その中で、学校の休校、イベントの中止やいろいろな情報が流れるなど、子どもや子どもの身近にいる大人の生活にも大きな影響が出てきています。

子どもたちの中には、自分や家族も病気になるのではないかと不安を抱き、いつもと異なる反応や行動がみられることがあるかもしれません。これらの反応・行動は一般的なことであることを知っておくことが大切です。



- 腹痛や頭痛、不眠、食欲不振などの身体症状を示す
- いつもより泣いたり、大人にしがみついて離れない
- 急に幼い言動をしたり、夜尿、お漏らし、わがままになるなど、いわゆる赤ちゃんがえり
- 遊びの中で起きている出来事を再現する



感染予防の観点からの子どものための安全な環境づくり

放課後児童クラブ(学童保育)などで、長時間、大人数の子どもが室内で過ごす場合、感染予防の観点から以下の点に気を付けてください^{※1}。



- 定期的な換気
- 密閉した空間で大人数が集まるよりも、屋外や広い屋内で、人が密集せずに十分に体を動かす配慮
- アルコール清拭による消毒(おもちゃ、子どもが良く触れるドアノブなど)
- 体調が少しでも悪い子どもを早めに見つける。また、利用を控えてもらう(健康チェックカードの利用など)
- 体調が少しでも悪い職員は勤務を控える
- 体調が悪い家族のいる子どもや職員の利用は控える
- 食事やおやつの前、遊んだ後などの手洗いとアルコール消毒の徹底
- 調理活動は控える